

殉職10人の勇気、胸に刻む 気仙沼・本吉消防が慰霊祭



献花台に花を手向け、殉職した消防士10人をしのぶ参加者＝25日、気仙沼市本吉町のはまなすホール

東日本大震災で殉職した宮城県気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部の消防士10人の合同慰霊祭が25日、気仙沼市本吉町のはまなすホールで開かれた。遺族や消防関係者ら約450人が参列し、祭壇に花を手向け、10人の死を悼んだ。

黙とうの後、広域行政事務組合管理者の菅原茂、気仙沼市長が式辞で「自らの命をもって地域住民の命を守る崇高な任務を全うした。津波死ゼロのまちづくりを進め、10人に報いたい」と述べた。

同消防本部では、南三陸消防署(南三陸町)が壊滅的な被害を受け、通信業務をしたり、庁舎前で避難誘導をしたりしていた消防士7人が津波の犠牲になり、うち2人はまだ見つかっていない。

気仙沼消防署本吉分署(気仙沼市)の2人、同唐桑出張所(同)の1人も避難誘導中に津波にのみ込まれ、亡くなった。

◎聞けなかったプロポーズ／交際相手が殉職、宮城・富谷町の山内さん「前向いて生きる」

「区切りになるけど、諦めきれない」。気仙沼市と南三陸町の殉職消防士10人を悼み、25日に行われた合同慰霊祭。命をなげうった使命感に惜しみない賛辞が贈られる中、遺族たちはあらためて悲しみと向き合った。

「きょうの慰霊祭をきっかけに、少しずつ前を向きたい」。富谷町の会社員山内朋子さん(26)は涙声で話す。

父親の山内吉勝さん(58)＝南三陸消防署、消防監、殉職で2階級特進＝と、交際していた佐藤清勝さん(36)＝気仙沼消防署唐桑出張所、消防司令長、同＝を同時に亡くした。

昨年春、父親から「いい人がいる」と佐藤さんを紹介された。誠実な人柄にひかれ、クリスマス前に付き合い始めた。

「大事な話がある」。佐藤さんは震災前日の3月10日、朋子さんに電話した。「もしかしてプロポーズ?」。朋子さんはあえて聞かず、3月12日に会う約束をした。

津波が全てを奪い去った。非番だった吉勝さんと佐藤さんは、南三陸町の南三陸消防署前に駆け付け、住民を高台に逃げるよう誘導していて津波にのみ込まれた。

朋子さんは「2人とも私の誇り。でも、本当は生きていてほしかった」と泣き崩れた。

南三陸消防署2階の指揮所で津波に襲われ、いまも行方が分からない山内一正さん(55)＝消防司令長、殉職で2階級特進＝の妻千江美さん(50)は「式では、夫との思い出が込み上げてきた。気持ちの整理を少しずつ進められれば…」と語る。

震災以来、消防署の周辺を捜し回り、遺体安置所を訪ねる日々が続いた。震災半年を機に一正さんの葬儀を営んだ。

千江美さんは「区切りをつけようと、自分に言い聞かせたかったのかもしれない」と言う。

2011年09月26日月曜日

印刷用ページ